

- (1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

関西にある女子大を探している中で、英語教育に定評のある同志社女子大学に魅力を感じるようになりました。実際にオープンキャンパスに参加した中で、キャンパスの雰囲気や学科紹介の内容に惹かれ志望しました。

- (2) 推薦入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

学習計画をノートにつけて勉強時間を明確にしたり、図書館に行き、環境を変えたりなど少しでも机に向かう時間を増やすようにしました。また推薦入試に向けて英語を強化するため、英文法に特化して勉強しました。

〔夏休み〕

予備校の夏期講習に参加したことで、学校とはまた違う雰囲気に圧倒され勉強への焦りを感じるようになりました。英語は単語と文法に取り組みました。また国語は古文が苦手だったので、単語と文法と1日1題読解問題に取り組みようようにしました。なるべく図書館や自習室で勉強し、集中した環境で勉強できるように心がけました。

〔2学期～入試直前〕

過去問を解くことで傾向をつかむようにしました。間違えた問題は理由を見直し、一度解いた問題でも時間を置いて繰り返し解きました。また10月にネット配信であった同志社女子大学の入試対策講座で学んだことを意識しながら過去問に取り組むようにしました。英単語帳や文法書なども何度も繰り返し、基本的な部分をきちんとできるように努めました。直前はイディオムや語法を中心に暗記系の分野の定着に力を入れました。

- (3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

入試の1〜2ヶ月前に模試の判定が急に下がったことがありました。過去問を解く前に「またできないだろう」と考えていたためか、全くできず焦る日々が続いたことがありました。ですが、合格したいという初心の気持ちを出し、冷静に今までの解き方を見直すことで、改善すべき点が把握でき、その点を意識することによって自分に自分のペースを戻すことができました。スマートフォン等では受験に必要なアプリはログアウトするなどしてスマートフォンを使う時間を減らすように心がけていました。

- (4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

判定等の結果にすぐに現れなくても、努力していけば力がついていくと思います。苦しいことも多い受験勉強ですが、やり終えた時には大きな自信になります。元気で頑張ってください。